

# 転任者が学校研究に適応するための支援のあり方

学籍番号 159959

氏名 小高 大輔

主指導教員 餅木 哲郎

## 1. 研究の背景

大都市圏を中心に教員の大量退職・大量採用が続いている。そのため、ベテランや中堅が減り、若手教員が多くをしめる状況になり、若手教員の教育力の育成が課題となっている。また、教員の精神疾患による病気休職者が多く、教師のメンタルヘルス不調も大きな問題となっている。研究校であるG大学附属H小学校においても、教師のメンタルヘルス不調が問題となり、特に、異動による負荷の大きい転任者の適応をどう支援するかが大きな問題となっている。

## 2. 先行研究（文献研究・調査研究）

### 2.1 目的

研究校に転任する教師にとって、転任は職能成長の機会になるとともに、キャリア発達の危機となる可能性がある。そこで、本研究では、先行研究を基に、学校研究への転任者の適応を促進するための要因の抽出を行うとともに、研究校での転任者への適応のための支援や研究の進め方を調べ、転任者の適応のための手立てを見出すことを目的とする。

### 2.2 方法

転任者が学校研究へ適応するための要因の抽出を行うために、教師のメンタルヘルス、職能成長、学校文化への適応の3つの先行研究を調べることで、学校研究へ適応するための要因を明らかにするとともに、研究校へのアンケートや研究紀要から、転任者への適応のための支援や学校研究の進め方について調べ、転任者の適応のための手立てを見出す。

### 2.3 学校研究に適応するための要因

教師のメンタルヘルス、職能成長、学校文化への適応に着目し、先行研究を調べ、学校研究に適応するための要因として、1つ目は、同僚と同じ立場に立ち、問題意識をもって、一人ひとりが自分の考えを語り、聞き合うことができること、2つ目は、学校研究の諸活動に能動的に参加し、「専門家」としての学びを行うこと、3つ目は、成果を感じられることを抽出した。そして、ワークショップ型の研究会が「専門家」として学び合い成長する場になりうると考える。

### 2.4 研究校での取り組み

研究校における転任者への適応の取り組みについてアンケートを行い、4小学校から回答を得た。また、研究校の研究紀要を調べる中で、ワークショップ型の研究会を行っている学校の学校研究の進め方について調べることができた。

## 2.5 まとめ

学校研究に適応するための要因が明らかとなり、ワークショップ型の研究会を行うことが学び合い成長する場をつくることになりうると考える。M大学附属N小学校の取り組みからは、経験の浅い教師も含めて、同僚が同じ立場に立ち、一人ひとりが自分の考えを語り合うワークショップ型の研究会を行っていることが見いだされた。この研究会の持ち方を参考に、ワークショップ型の研究会が「専門家」としての学びになるようにし、参加者にとって成果が見える場にする事ができれば、学校研究に適応するための有効な手立てとなると考え、実践することにした。

# 3. 授業を語る会の実践研究

## 3.1 目的

M大学附属N小学校の研究会の持ち方を参考にし、教師一人ひとりが自分の考えを語り、聞き合うことができるように、付箋に見た事実を書いて模造紙にはり、話し合いながらキーワードを書き込み、話し合いを可視化するワークショップ型の研究会を「授業を語る会」と呼ぶことにし、研究校に転任した教師に「授業を語る会」を実施し、学校研究に適応するための支援としての有効性を明らかにすることを目的とする。

## 3.2 方法

研究授業を参観後に「授業を語る会」を実施し、アンケートやインタビューをもちいて調査を行い、「授業を語る会」を改善しながら、学校研究に適応するための支援としての有効性を確認する。

## 3.3 結果

「授業を語る会」を、20回実施した。「授業を語る会」は大きく分けて、2015年9月～12月の9回、2016年6月の4回、2016年9月～12月の7回の3つに分けられる。これは、校内の研究授業の計画に合せたもので、アンケートやインタビューを基に「授業を語る会」の改善を行った。

参加者は、2015年時の報告者(5年目)、4年目(F)、2年目(E)、1年目(A, B, C, D)であった。

## 3.4 まとめ

「授業を語る会」は、一人ひとりが自分の考えを話すことができ、他の人の考えを聞いたり知ったりすることができる場になっていたといえる。ポスターに話し合いが可視化されることで、お互いの考えのつながりや研究とのつながりが見え、安心感や話し合いの成果の実感につながったと考える。「授業を語る会」の回数を重ねる中で、報告者が学校研究と関連付け、価値付けることで、「専門家」としての学び合いに近づくことができたのではないだろうか。何より、多忙の中、最後まで参加を続け、「授業を語る会」で参加者が自ら話し始める姿は、「授業を語る会」によって、学校研究への適応が進んだことを示していると考ええる。

# 4. 成果と課題

学校研究に適応するための要因を明らかにし、転任者が適応するための支援として、「授業を語る会」を実施し、転任者が学校研究に適応するための支援としての有効性を示すことができた。しかし、本来は、学校研究の場において、教師一人ひとりが自分の考えを語り、聞き合うことができるようにしていくことこそが、転任者が適応するためには最も必要なことであろう。